

● 総合学習 ●

地域社会と一緒にあって、 持続可能な社会の担い手を育てる授業

新潟県 新潟市立新潟小学校（校長 近藤 朗）

- ① 地域を舞台にした、探究的な学習を組織する。
- ② 地域活性化について、子どもが主体的に関わる活動を組織する。
- ③ 単年度で終わることなく、毎年発展しながら継続できるように
単元構成を工夫する。
- ④ 1年生から6年生まで、系統的な教育課程を組織する。
- ⑤ 学校と地域の諸団体・関係機関が一つの輪になった総合連携を図る。

I はじめに

新潟小学校は、新潟市中央区に位置し、西に日本海、東に信濃川が流れている。新潟小学校を取り囲む地域は、古町・本町といった古くから新潟市の商業の中心として歴史があり、多くの人が様々な仕事を行っている。PTAはもちろんのこと、商店街で働く人々も子どもたちにかける期待が大きく、学校に大変協力的で、地域から支えられている学校である。

そのような環境で地域の力を生かし、地域と一緒にあって学習活動を展開することで、地域を愛する児童を育てたいと考えた。

地域社会と一緒にあって学校教育を展開するためには、学校・地域の双方にとって価値がある活動を組織しなければならない。そういった地域に根差した価値のある活動を展開していくこととした。

II 具体的な活動内容

平成21年度から6年間（指定延長3年含む）、文部科学省研究開発学校として取り組んだ、新教科の創設「環境コミュニケーション科」の研究では、地域を活かした様々な単元を開発した。その中でも4学年の地域の商店街と連携してオリジナルスツールを企画・販売する学習は、今もなお継続し、地域との親交を深めており、今後も地域と共に歩み展開していく活動である。

◆ 4学年

吉町から発信！～つながる、広がる
私たちの新潟市～ の実践

（単元のねらい）

学校区の主な特徴を自分から進んで調べ、友達と関わり合いながら学習を深めるとと

もに、地域のために自分たちでできることを考え実行することができる。

(単元の開発と構成)

平成19年4月、新潟市は日本海側初の政令指定都市となった。旧新潟市を含む周辺市町村が合併し、8つの行政区が設置された。児童は居住区とかろうじてつながりを意識できる隣の区については自分の住む町と捉えているものの、合併した区については関心が低く、つながりが浅いため、同じ新潟市と捉えているとは言えなかった。

そこで、これから的新潟市を担う児童が、8つの行政区すべてを自分の住む町として向き合ってほしいと願い、平成22年度に単元を開発した。

今年度で7年目になるが、毎年児童の実態や意識に添って、単元を構成している。

1. これまでの活動

○ 平成22年度

古町を盛りあげるために私たちにできること（自然教室で訪れた西蒲区の特産物を使ったスイーツ作り）

○ 平成23年度

古町への思いとおいしさにこだわったスイーツ（古町のイメージをデザインしたフルーツ作り）

○ 平成24年度

ふるさと新潟のよいところをスイーツに込めよう！！（日本海、夕日、花火など名所・行事をイメージしたスイーツ作り）

○ 平成25年度

政令市新潟8区の特徴をスイーツに！！（8区のそれぞれの特徴をテーマに考案スイーツ作り）

○ 平成26年度

古町の魅力発信！2014～古町スイーツで名所めぐり～（中央区の見どころ・名所をデザインしたスイーツ作り）

○ 平成27年度

スイーツで発信！新潟島の歴史！！（新潟島の歴史からイメージしたスイーツ作り）

22年度はあえて児童の住む新潟市中央区から一番遠くつながりの浅い新潟市西蒲区で、野菜を栽培する活動を行い、西蒲区の人との交流を深めた。

25年度は8つのすべての区について調べ活動を行い、それぞれの区のよさに気付かせ、児童の住む中央区を他区のよさと比べながら見つめ直させた。子どもたちは学区の商店街「古町」の空洞化を知った。

古町を活性化させようと発案した「古町スイーツ」は、商店街の方との思いと合致し、児童と商店街が協力して企画・販売することになった。そして政令指定都市・新潟市の8区の特色を「古町スイーツ」に込めて発信した。

合併して大きくなった新潟市を改めて児童に感じさせることにつながり、商品の企画だけでなく、PR活動についても積極的に考えさせた。「古町スイーツ」の商品化に当たり、商店街の方と何度も関わり、人の思いに触れた児童は、地域に対する愛着を深めていった。

2. 児童の意識の流れ（平成25年度）

自分の住んでいる中央区以外は、あまり興味もないし、よく知らないな。自然教室で行った西蒲区について調べてみよう。



西蒲区は農業が盛んだな。同じ新潟市でもずいぶんと様子が違うな。私たちも広い

畑で、おいしい野菜を育ててみたいな。



私たちの住んでいる中央区はどんな特徴があるのだろう。大好きな古町はお客様がどんどん減っているんだな。



古町に以前のようにたくさんのお客さんが来るようにはすることはできないか。他の区からたくさんの人々に来てもらいたいな。



オリジナルスイーツをつくって販売し、古町を盛り上げよう。各区の人々を古町に注目させなければならない。どういったスイーツがいいかな。商店街の人々に提案して商品化してもらおう。



商店街の人々とつくった「古町スイーツ」は、きっとたくさんの人に受け入れられるだろう。



私たちの「古町スイーツ」は好評だった。私たちだけではなく、古町商店街の人々、来場者が笑顔で喜んでいて嬉しかったな。



古町の活性化をねらった「古町スイーツ」は大成功だった。これをずっと魅力的なものとしていくためには、古町商店街の人々と一緒に新しいことを考え続けていくことが必要なんだ。他区のよさもたくさんわかった。まだまだ私たちの知らないよさが新潟市にはたくさんありそうだ。

このように、毎年児童の思いや願いを大切にしながら単元を構成してきた。

3. 平成27年度の活動の実際

新潟市中央区の中でも、新潟小学校区が含まれる「新潟島」をテーマとし、子どもたちが興味・関心をもって調べてわかった

ことをスイーツづくりにつなげていった。

(1) まず、古町商店街に昔から喫茶店を営んでいる喫茶マキさんから話を聞き、古町の現状を知り、古町活性化に向けた商店街の方の思いを子どもたちは知った。



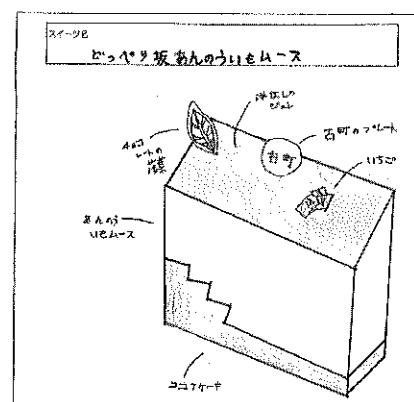
◆ 喫茶マキさんから古町の現状を聞く

(2) 商店街の方の話に共感した児童は、古町活性化のために取り組みたいという思いを強めた。これまで学んだことを生かして、スイーツにできないかと考えた。

(3) 子どもたちは古町の歴史や特色を9つのテーマにしぼりこんだ。そして一つ一つのテーマについて、さらに詳しく調べ、次のように企画書を製作した。

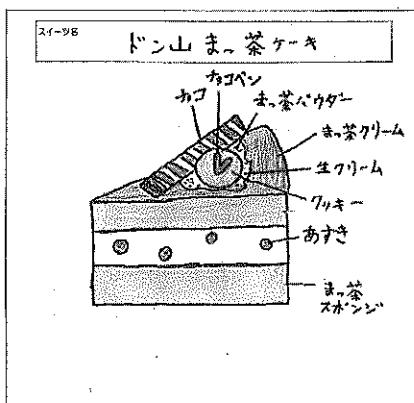
① 学区にあるどっぺり坂からイメージ

「この坂を下って町に遊び行くと落第するという迷信から名付けられました。」



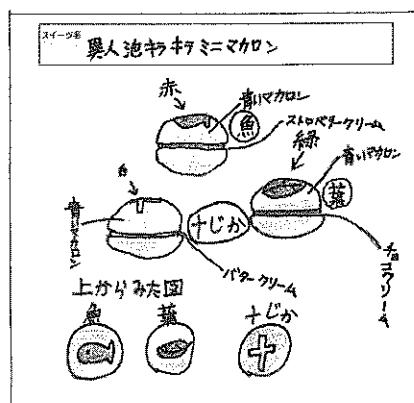
② 砲台が残るドン山からイメージ

「明治6年から大正13年までの52年間、大砲の空砲を打ち、人々に時間を知らせていました。ドーンと音が鳴るのでドン山と呼ばれました。」



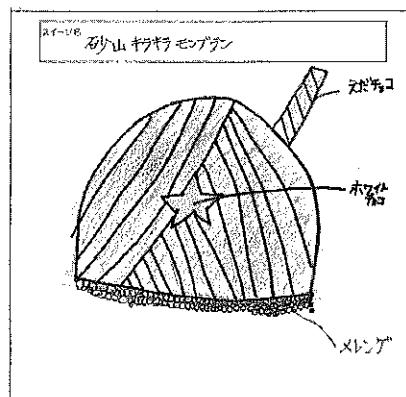
③ 学校近くの異人池からイメージ

「カトリック教会を作ったスイス人のマックヒンデルさんが井戸を作り、その井戸から水があふれ出して池ができたそうです。」



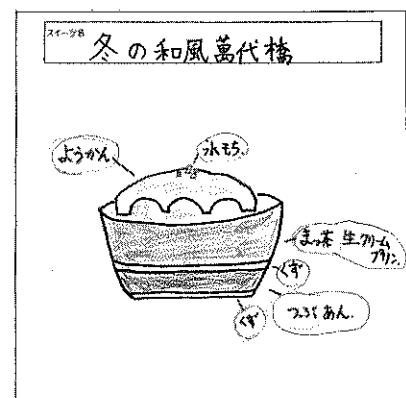
④ 日本海に面する砂山からイメージ

「砂の被害に悩まされていた新潟の町。松を植えて被害を防ぎました。また、詩人、北原白秋は、美しい新潟砂丘を『砂山』に詠みました。」



⑤ 信濃川に架かる萬代橋からイメージ

「明治時代に信濃川に萬代橋がかけられました。当時日本一長い橋でした。現在の萬代橋は三代目で、鉄筋で作られています。」

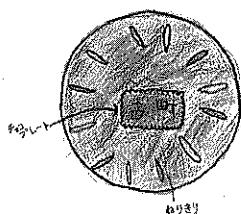


⑥ 夏を彩る新潟花火からイメージ

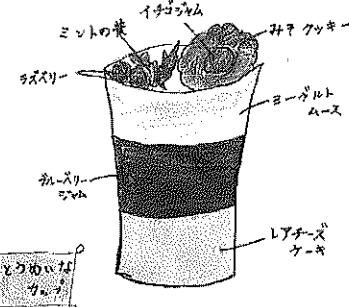
「新潟まつりは住吉祭、商工祭、川開き、開港記念祭の4つの祭りが一つとなり、始まりました。」

新潟祭りは、民謡流し、住吉行列、花火などのイベントがあります。

スイーツ名 古町花火どらやき



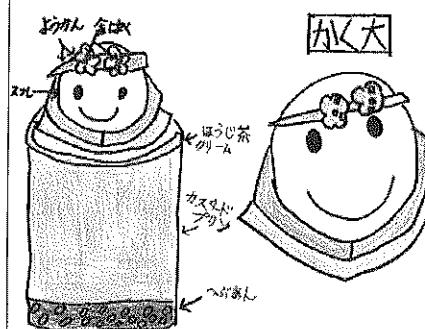
スイーツ名 三層 菓譜ムース



⑦ 古町の芸妓さんからイメージ

「新潟の町は江戸時代に開港し、多くの人々でぎわっていました。日本中から集まったお客様をもてなすために芸妓さんが増えてきました。」

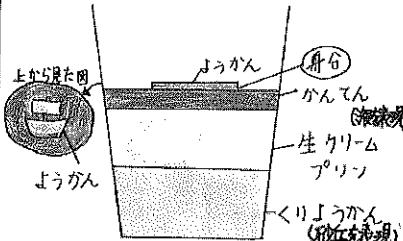
スイーツ名 芸妓さんカスタードプリン



⑨ 港町の象徴だった北前船からイメージ

「新潟の町は、江戸時代から港町として栄えました。北前船が出入りし、明治時代には、開港5港の一つに選ばれました。」

スイーツ名 くりたっぷり北前船ようかん



⑧ 味噌作りなどの発酵食品をイメージ

「江戸時代より港町として栄えた新潟。新潟の発酵食品は、北前船や、栗の木川の水運びなどがあったため、発酵食品を扱う店が増え、全国各地に出荷されました。」

(4) 製作した企画書を、スイーツ職人の方に提案した。そして、職人の方からアドバイスをもらい、それを修正・改善していく。

職人の方も、子どもたちの思いを受け止めてくださいり、いろいろ試作を繰り返してくださいました。スイーツ職人である地域の方と児童の思いが「古町スイーツ」という形になり、商品化に至った。

販売前には試食会を開き、よりよいス

イーツになるようにとスイーツ職人の方や保護者の方と意見交換を行った。



◆ 子どもたちのアイディアがスイーツに



◆ 保護者からも意見を聞いた試食会

(5) ついに販売にこぎつける。多くの人の古町への思いがたくさんつまった「古町スイーツ」の販売である。

- ・まず自分たちでつくった歌を歌ったり、大きな声で呼びかけたりしてスイーツをアピールした。大勢の保護者からも協力していただいた。
 - ・次に各店舗や、百貨店「三越」の特設会場で、呼び込み、商品説明などの販売の応援を行った。
 - ・販売最終日には、週休日ということもあり、家族や親せきを誘って自らお客様となり、消費者の立場になって、古町の活性化について関心を深めていった。
- このように、児童の考えたスイーツの商

品化に当たり、商店街の方と何度も関わり、人の思いに触れた児童は、地域に対する愛着を深めていくことができた。



◆ 街頭で販売促進のための商品説明

(6) 次に挙げるのは販売会を終えての子どもたちの感想の一部である。

- ・「今まであまり古町へは買い物に行きませんでした。でもこの「古町スイーツ」で、古町にはいろいろな歴史があることがわかりました。お母さんやお父さんに教えて、一緒に古町に買い物に行きたいです。」
 - ・「古町スイーツプロジェクトで、たくさんのお店の人とかかわりました。あいさつやお礼を言って、お店の人と親しくなりました。これからも古町のお店でごはんを食べたり、遊んだりして、たくさんお店の人とかかわっていきたいです。」
 - ・「これからも古町のイベントに参加したり、買い物をしたりしたいです。古町に関係する学習にも積極的に取り組んでいきたいです。来年の4年生には、もっとすてきなケーキをつくってもらって、たくさんのお客さんが来ることを願っています。」
- また購入した方からは、次のような感想が聞かれた。
- ・「新潟市の特産物をちゃんと調べて作っていて素晴らしい。新潟らしいスイーツで古町も元気になると思います。」
 - ・「地域と共に子どもの学習できる場があって良い経験になると思います。子どもたちが活性化に取り組んでいて素敵です。」



◆ 地域に配布された広告

(7) 単元を通しての子どもたちの評価

(平成27年度 4学年児童 100名)

自己評価と教師評価の総合評価

ア. 地域の活性化に向けて、「古町スイーツ」の開発や宣伝の活動に取り組もうとしている

- 評価A・・・100名 (100%)
- B・・・0名 (0%)
- C・・・0名 (0%)

(A : 進んで企画・運営に関わる)

イ. 商品開発をするために、古町の歴史や商店街の人々の思いや願いがわかる

- 評価A・・・100名 (100%)
- B・・・0名 (0%)
- C・・・0名 (0%)

(A : 古町の現状を理解し、思いや願いを共有している)

このように古町スイーツを題材にした「古町との関わり」によって、児童の思いは、4年生時の古町スイーツの活動はもちろんのこと、1年生時からの継続した地域との関わりによって、地域やそれに関わる人の思いに触れてきたからといえる。

4. 平成27年度の他学年の活動

新潟小学校では4年生のみならず、全学年で古町を中心とした地域と関わる活動を

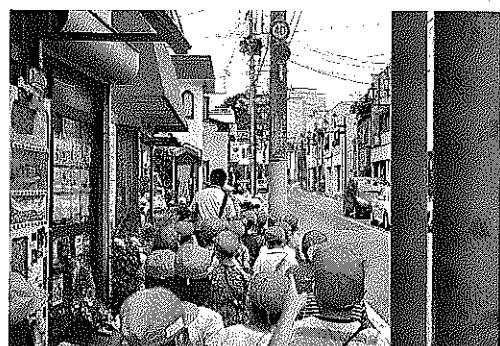
展開している。

① 1年生「七夕飾り」



◆ 商店街での七夕飾り

② 2年生「町たんけん」



◆ 本町商店街の見学

③ 3年生「1日店員」



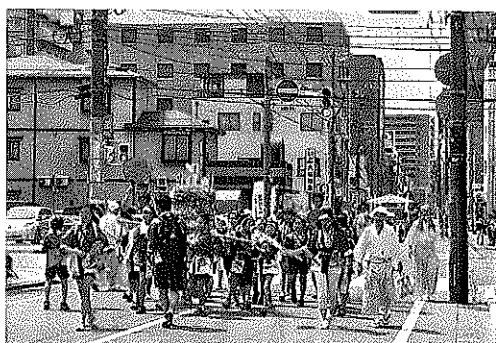
◆ 古町商店街の約40店舗で1日販売体験

④ 4年生「古町スイーツ」(前記で詳述)



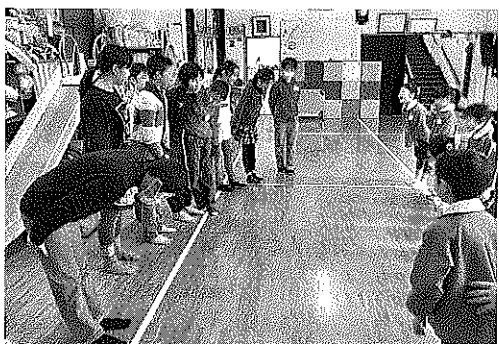
◆ 古町商店街と連携しスイーツの商品開発

⑦ 全学年「新潟祭りへの参加」



◆ 民謡流し、住吉行列への参加

⑤ 5年生「幼稚園・保育園訪問」



◆ 学区の幼稚園児、保育園児との交流

⑥ 6年生「新潟総踊り」



◆ 古町や新潟祭り、タンボボ盆踊り大会を盛り上げる「新潟総踊り」の発表

III 成 果

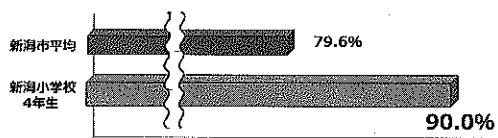
「H27 新潟市生活・学習意識調査」の地域に関する項目について、次のような結果となった。

○ 「地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります。」について肯定的に答えた割合が、

新潟市平均79.6%に対し、新潟小学校4年生が、90.0%。

H27 新潟市生活・学習意識調査

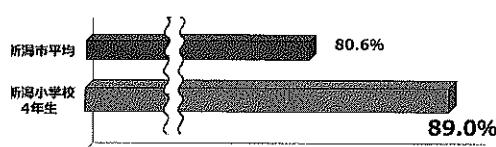
「地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります」(地域から認められてうれしい)



○ 「地域のことについてふれたり、調べたりする学習は好きです」については、新潟市平均80.6%に対し、新潟小学校4年生が、89.0%。

H27 新潟市生活・学習意識調査

「地域のことについて、調べたりする活動は好きです」(地域活動が好き)

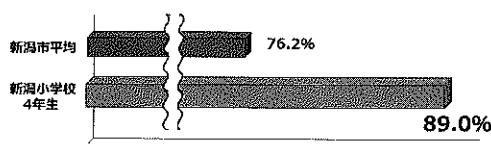


- 「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。」については、

新潟市平均76.2%に対し、新潟小学校4年生が、89.0%。

H27 新潟市生活・学習意識調査

「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かたり、できたりすることがよくあります」(地域から学んでいる)



このような結果からも、児童は地域の特色や人の思いに触れ、地域活性化に意欲的に取り組んだといえる。

また、喫茶マキさんは、テレビ局のインタビューに次のように答えている。

「今、吉町は閑散としていて、特に夜は人が歩いていない状況です。子どもたちが心配してくれて、何かできないかと考えてくれるのがうれしいです。スイーツも完売してありがとうございます。子どもたちがこれだけ一生懸命なので、大人も負けてはいられません。そんな気持ちでこれからもがんばっていこうと思います。」

子どもたちの活動は、地域の大人にも元気を与えた。子どもたち、地域の大人の両者にとって、改めて地域を見つめ直し、そ

してとらえ直すという、相乗効果が互いに見られた。

N これからの地域連携

これまでの地域連携というと、学校とそれぞれの諸団体・関係機関が個別に、連携を図ってきたことが多かった。そして、学校とそれぞれの諸団体・関係機関の連携は密であっても、諸団体・関係機関同士の連携が希薄で、つながりが弱かった。

新潟小学校の考える地域連携とは、諸団体・関係機関がそれぞれ輪となり、手をつなぐ「総合連携」である。

学校もその輪の中の一つとして位置付け、諸団体・関係機関が対学校にとどまることなく、それぞれの団体同士すべてが手をつなぎ合って、児童を育成する関係を構築することが大切なのである。

「古町スイーツ」を代表とする、地域と一体となった様々な活動により、現在では、学校と多くの諸団体・機関が連携し合っている。



◆ 新潟小学校の考える地域連携

新潟小学校で現在、この地域連携の姿が最もよく表れている活動が「タンボポ盆踊り大会」である。本年度で3回目を迎えたが、諸団体・関係機関が手をつないで企画・

運営に携わっている。

学校は、みんなが参画できる「場」（タンポポ盆踊り大会）を設定し、開催を地域に投げ掛けた。児童を中心に置き、学校も輪の中の一つになり、それぞれの団体と連絡調整にあたった。

その結果、それまでほとんど関わりのなかった団体同士が、自分たちができることができる範囲で行おうと、折り合いをついたのである。学校は連絡・調整にあたり、それが輪となり、参画した。

教育的価値を見いだせる「場」を、提供する役割を学校が務めたのである。



◆ 地域が一つに～タンポポ盆踊り大会

新潟小学校のとらえる地域教育プログラムとは、

学校を含め、諸団体・関係機関が一つの輪となった『総合連携』を図った「1年生から6年生までの、系統的な流れを含む教育課程」

である。

V おわりに

環境・社会問題の多様化、複雑化が進む中、未来の社会の担い手となり、様々な問題の解決にあたっていくのは、間違いなく

今、学校で学んでいる子どもたちである。

こうした中、学校は子どもに未来の社会の担い手としての生き方をしっかりと教えることが必要であり、どんな困難に直面しても生き抜く力を子どもに身に付けなければならない。そのためには、これまで以上に学校が地域に開かれ、地域と共に歩むことが必要である。

そして、新潟小学校の地域連携を表す「教育ビジョン」が次の図である。



下は、昨年7月に古町モールに飾られた新潟小学校5年生児童の短冊である。

「古町のにぎわいがもりりますように」。



これからも新潟小学校は、地域の力を生かし、地域と一体となって学習活動を展開することで、地域を愛する児童を育てていきたいと考える。

(研究主任：竹石一博)